

# 2007年度(平成20年3月期) 中間決算説明会

大日本住友製薬株式会社  
代表取締役社長 宮武 健次郎

2007年11月8日

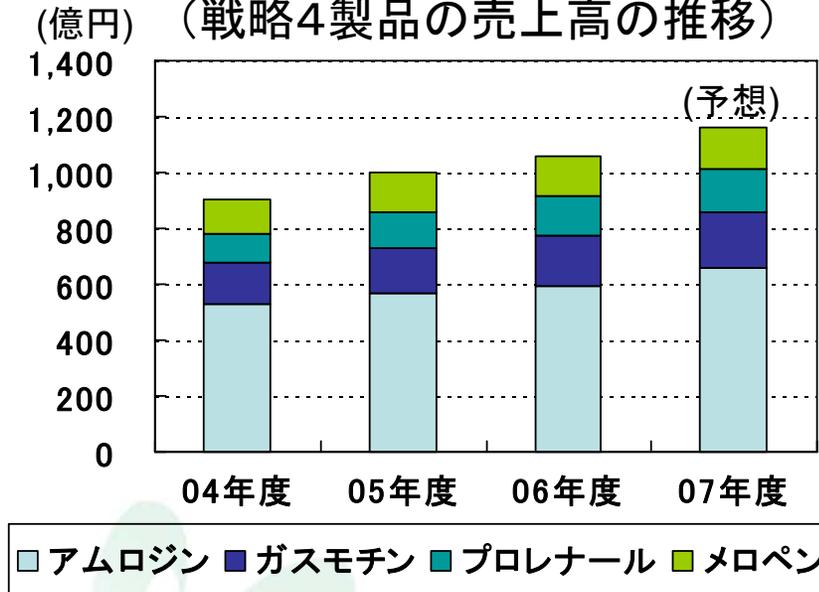
# 2007年度中間決算の概要



# 3つのシナジー(合併後2年間の成果)

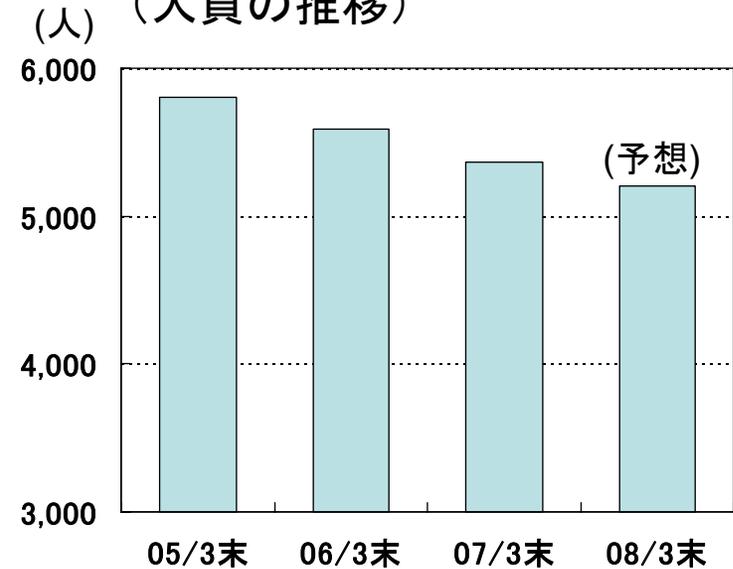
## 営業シナジー

(戦略4製品の売上高の推移)



## コストシナジー

(人員の推移)



## コストシナジー

購買力アップ : 20億円の削減

拠点統廃合 : 10億円の削減

## 意識シナジー

前臨床段階に、DSP番号の付いた開発化合物が複数存在

# 経営成績

金額単位：億円

	06年度 中間期	07年度 中間期	前年同期比		中間期 業績予想	差額
			増減額	増減率		
売上高	1,269	1,287	18	1.4%	1,330	△ 43
営業利益	205	223	18	9.0%	220	3
経常利益	196	222	26	13.3%	210	12
中間純利益	95	138	43	45.5%	124	14

(注) 1.記載金額は億円未満を四捨五入しております。

2.当中間期より「DSファーマバイオメディカル株式会社」を連結子会社を含めております。

# 売上高の増減要因

金額単位：億円

	06年度 中間期	07年度 中間期	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	1,269	1,287	18	1.4%

## (増収要因)

- ・戦略4製品の堅調な推移
- ・輸出の増加

## (減収要因)

- ・物流拠点・システム統合に伴う前期末前倒し出荷の影響
- ・戦略4製品以外の既存製品の売上減少
- ・工業所有権収入の減少

# 戦略4製品の売上高

金額単位：億円

	06年度 中間期	07年度 中間期	前年同期比	
			増減額	増減率
アムロジン	287	321	34	11.9%
ガスモチン	89	94	5	5.8%
プロレナール	68	71	3	4.4%
メロペン	70	71	1	1.1%
<b>戦略製品計</b>	<b>514</b>	<b>557</b>	<b>43</b>	<b>8.4%</b>

(注) 売上高は、国内売上高・リベート控除前で記載しております。

# 売上原価・販売費及び一般管理費

金額単位：億円

	06年度中間期		07年度中間期		増減額
		対売上高 比率		対売上高 比率	
売上高	1,269	—	1,287	—	18
売上原価	481	37.9%	482	37.4%	1
売上総利益	789	62.1%	806	62.6%	17
販売費及び一般管理費	584	46.0%	583	45.3%	△ 1
販売費・一般管理費	377	29.7%	386	30.0%	9
研究開発費	207	16.3%	197	15.3%	△ 10
営業利益	205	16.1%	223	17.3%	18

(注) 売上原価には返品調整引当金繰入額を含めて記載しております。

## (売上原価)

- ・利益貢献度の高い戦略製品の売上増加により売上原価率が改善

## (販売費及び一般管理費)

- ・広告宣伝費の増加
- ・研究開発費の減少

# 営業外損益および特別損益

金額単位：億円

	06年度 中間期	07年度 中間期	増減額
営業利益	205	223	18
営業外収支	△ 9	△ 1	8
金融収支(受取配当金を含む)	4	8	3
寄付金	△ 7	△ 9	△ 1
その他	△ 6	△ 0	6
経常利益	196	222	26
特別損益	△ 35	—	35
特別退職金	△ 29	—	29
退職給付制度改定に伴う損失	△ 6	—	6
法人税等・少数株主利益	△ 65	△ 84	△ 18
中間純利益	95	138	43

# 財政状態

金額単位：億円

	前期末 (2007年3月31日)	当中間期末 (2007年9月30日)	増減額
資産の部	3,825	3,842	16
流動資産	2,343	2,378	35
固定資産	1,482	1,464	△ 18
負債の部	765	703	△ 62
流動負債	560	561	1
固定負債	205	142	△ 63
純資産の部	3,060	3,138	78

(自己資本比率)

79.8%

81.4%

## (資産の部)

- ・短期貸付金の増加・・・・・・・・・・・・・・・・・・400億円
- ・現金及び預金・有価証券の減少・・・・・・・・・・△341億円

## (負債の部)

- ・支払手形及び買掛金の減少・・・・・・・・・・・・△ 29億円
- ・繰延税金負債の減少・・・・・・・・・・・・・・△ 12億円

# キャッシュ・フロー

金額単位：億円

<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>+ 177</b>
・税金等調整前中間純利益	+ 222
・減価償却費	+ 57
・売上債権の減少額	+ 36
・法人税等の支払額	△ 86
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 497</b>
・3カ月超の定期預金等の純増額	△ 30
・投資有価証券の取得	△ 32
・短期貸付金の純増額	△ 400
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 33</b>
・借入金の減少	△ 4
・配当金の支払	△ 28

当中間期末現金及び現金同等物残高 466億円(前期末比△351億円)

# 2007年度業績予想の概要



# 2007年度通期業績予想

金額単位：億円

	06年度 年間実績	07年度		増減額	
		業績予想 (5/10発表)	修正予想	対前年度	対5月予想
売上高	2,612	2,730	2,670	58	△ 60
営業利益	456	460	410	△ 46	△ 50
経常利益	432	440	402	△ 30	△ 38
当期純利益	226	260	247	21	△ 13
研究開発費	409	480	470	61	△ 10

# 売上原価・販売費及び一般管理費

金額単位：億円

	06年度実績		07年度予想		増減額
		対売上高 比率		対売上高 比率	
売上高	2,612	—	2,670	—	58
売上原価	993	38.0%	1,003	37.6%	10
売上総利益	1,619	62.0%	1,667	62.4%	48
販売費及び一般管理費	1,163	44.5%	1,257	47.1%	94
販売費・一般管理費	754	28.9%	787	29.5%	33
研究開発費	409	15.6%	470	17.6%	61
営業利益	456	17.4%	410	15.4%	△46

(注) 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

## (売上原価)

- ・戦略4製品を中心とした医薬プロモーション品の伸長による売上原価率の改善

## (販売費及び一般管理費)

- ・企業認知度向上施策(テレビコマーシャル等)、e-ટેイテール等販売支援策の積極的实施
- ・ルラシトンの海外自社開発、インディプロンの導入等戦略的研究開発投資の実施

# 国内営業での取り組み



# 事業部制の導入

## ■ 事業部制

- ブロック単位で7つの事業部を新設
- 事業部の傘下に28支店を設置

## ■ 事業部制導入の狙い

- 地域密着型営業を更に推進する
- 現場と本部が一体となって戦略を立案し、検証する
- 営業本部長から事業部長への権限委譲
- コミュニケーション単位を改善し、納得感を高める

# 戦略4製品の売上計画

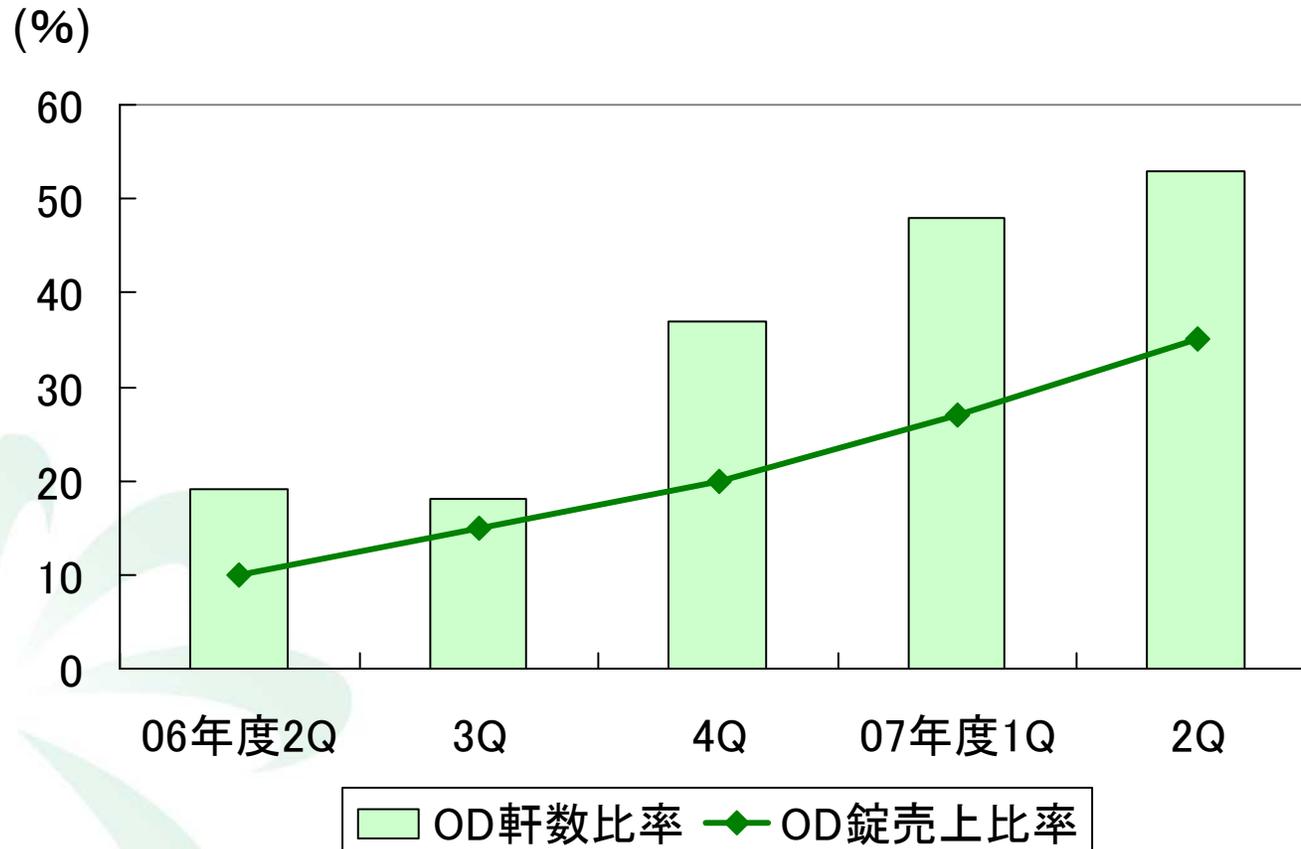
金額単位：億円

	05年度 (実績)	06年度 (実績)	07年度 (修正計画)
アムロジン	568	592	660
ガスモチン	163	185	200
プロレナール	126	138	150
メロペン	141	143	150
計	999	1,057	1,160

(注) 売上高は、国内売上高・リベート控除前で記載しております。

# 戦略4製品での取り組み(アムロジン)

## ■ OD錠への切替、処方増を推進



# 循環器領域の強化

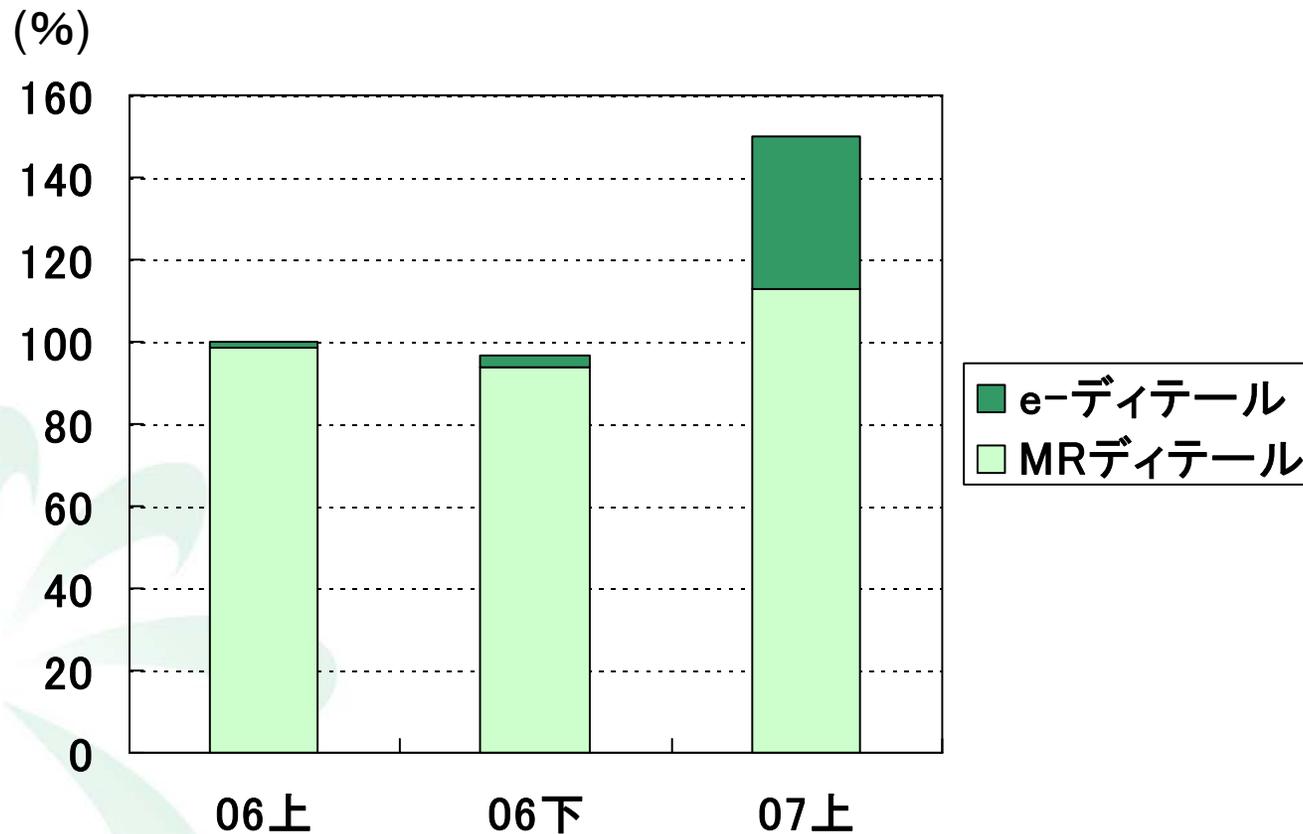
アムロジン最大化、イルベサルタン発売に備え、  
MRの専門性の更なる向上

- MR育成プログラムを作成中
- 循環器認定MR制度の導入を検討



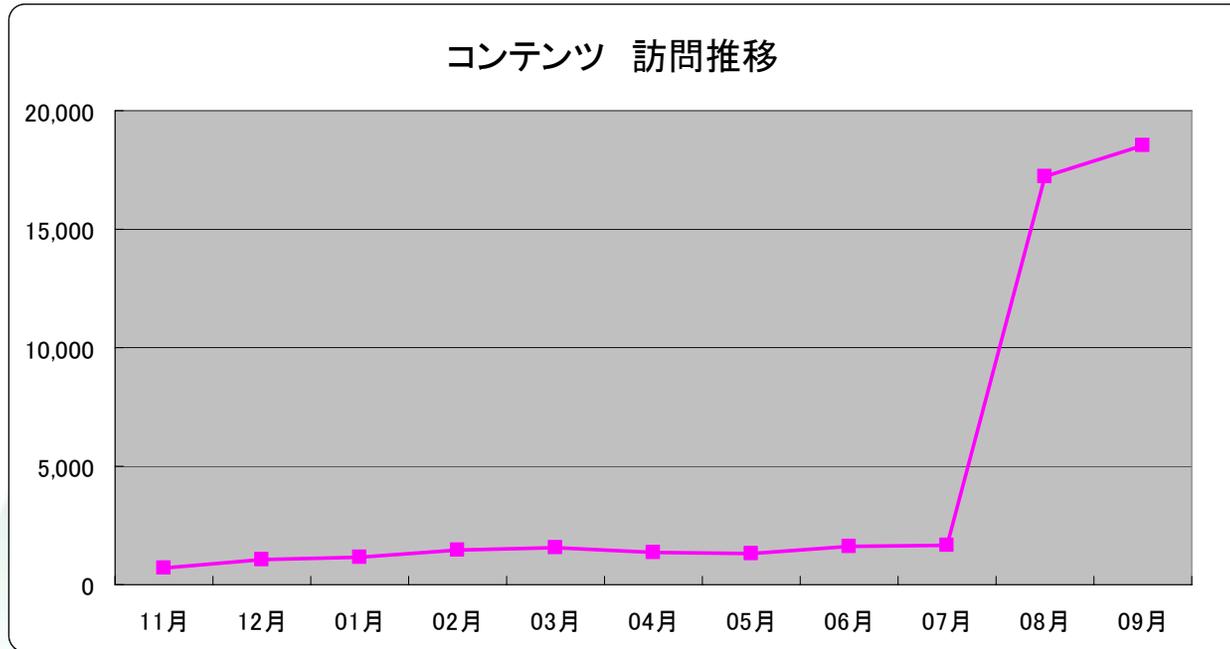
# 戦略4製品での取り組み(ガスモチン)

- e-ディテールの活用 ⇒ 総ディテール数アップ



# 機能的胃腸症(FD)の認知拡大

## ■ 一般向けホームページのアクセス数の増加



## ■ 「機能的ディスぺプシア研究会」による疫学調査

## 戦略4製品での取り組み(プロレナール、メロペン)

### ■ プロレナール

- 患者数は増加傾向
- プライマリケアにおける認知度向上活動を引き続き実施

### ■ メロペン

- 院内感染対策
- 外科対策

# CNS領域の強化

ブロナンセリン発売(来春予定)に備え、CNS領域を更に強化

## ■ CNS専任MRの増強

- 人員増強
- 専門性の向上

## ■ 吉富薬品株式会社とコ・プロモーション

- ルーランに加え、ブロナンセリンのコ・プロモーション契約を締結
- ブロナンセリンの早期最大化を目指す

## 下期の重点施策(その他)

- 新製品の拡大
  - アムビゾーム(ポジショニングの早期確立)
  - セイブル(処方医師数の拡大)
  
- 「統合コールセンター(仮称)」の開設準備
  - 来年4月開設に向け、準備室を設置
  - 顧客満足度の向上を図る

# 臨床開発の現況



# 臨床開発の現況

申請中	第III相試験	第II相試験		第I相試験
統合失調症治療剤 <b>AD-5423</b> (プロナセリン)	発熱性好中球減少症 <b>メロベン</b>	糖尿病合併症治療剤 <b>AS-3201</b> (ラニestaット)	糖尿病治療剤 <b>SMP-508</b> (レパグリニド)	過活動膀胱治療剤 <b>SMP-986</b>
高血圧症治療剤 <b>イルベサルタン</b>	パリウム注腸X線造影 検査前処置 <b>ガスモチン</b>	統合失調症治療剤 <b>SM-13496</b> (ルラシドン)	糖尿病治療剤 <b>SMP-862</b> (メホルミン)	
肝細胞癌治療剤 <b>SM-11355</b> (ミリプラチン)		関節リウマチ治療剤 <b>SMP-114</b>	認知症治療剤 <b>AC-3933</b>	
パーキンソン病 <b>AD-810N</b> (ゾニサミト)	統合失調症治療剤 (米国・欧州等) <b>SM-13496</b> (ルラシドン)	頸椎症 <b>プロレナール</b>		
C型代償性肝硬変 <b>スミフェロン</b>		関節リウマチ治療剤 (欧州) <b>SMP-114</b>	認知症治療剤 (米国・欧州) <b>AC-3933</b>	気管支喘息治療剤 (米国) <b>SMP-028</b>
		統合失調症治療剤 (米国・欧州) <b>AD-5423</b> (プロナセリン)	過活動膀胱治療剤 (米国・欧州) <b>SMP-986</b>	

 国内開発(新有効成分)

 国内開発(適応症追加)

 海外自社開発

今回の変更を白抜き文字で表示

# ルラシドンの開発計画(1)

## ■海外開発

- 8/30 FDAに最初の第Ⅲ相試験のIND Amendmentを提出
- 試験計画概要
  - 対象患者: 統合失調症患者
  - 対照薬: プラセボ
  - 目標症例数: 480例
  - 治験実施国: アメリカ、フランス、ロシア 他
  - 試験デザイン: 無作為割付、二重盲検、4群比較試験
  - 評価項目: PANSS、CGI-S

## ルラシドンの開発計画(2)

### ■海外開発

- 統合失調症患者を対象とした実薬群を含んだ第Ⅲ相試験等を実施予定
- 双極性障害患者を対象とした第Ⅲ相試験を2008年度に開始予定
- 認知機能改善効果を検証するための試験を予定

### ■国内開発

- 統合失調症患者を対象とした第Ⅲ相試験について機構相談を実施予定

# 睡眠導入剤インディプロンの導入

- ニューロクライン・バイオサイエンス社と、睡眠導入剤インディプロンのライセンス契約を締結。  
国内における独占的開発・販売権を取得。

## ■プロフィール、特徴

- 非ベンゾジアゼピン系、超短時間型。
- 既存の超短時間型の薬剤に比べて、さらに半減期が短い。
- GABA-A受容体における選択性が高い。
- 持ち越し効果、記憶障害、筋弛緩作用などの軽減により、既存薬よりも安全で使いやすい。

## ■今後の予定

- 臨床試験(第I相)の早期着手

## 将来予測に関する注意事項

この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。

したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います。

医薬品(開発中のものを含む)に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。